

災害から住民を守り、水や生物と触れあえる川をどうつくっていくか

「川づくりと河川環境」



11月8日（土）午後1時半～3時半
長岡京市 中央生涯学習センター

地球温暖化などによる異常気象の中で、ゲリラ豪雨など災害の危険が高まっています。昨年9月に襲った台風18号による桂川の氾濫などは、記憶に新しいところです。

河川工事は、治水や利水を目的として進んできましたが、平成9年の河川法の改正で、「河川環境の整備と保全」が目的に新たに盛り込まれ、河川工事では、災害対策だけでなく、自然を考えた川づくりがすすんでいます。

小泉川や小畑川を歩くと、生物が住みやすい木の護岸や、魚が遡りやすい魚道など、多自然型工法が目につきます。また、住民が水と触れ合えるような、親水護岸もあります。このような河川工法の変化や現状について、行政の担当者の方に説明していただきながら、川の多様な役割や生き物との共生について、考えていきたいと思ひます。ぜひご参加ください。

■日時 11月8日（土）午後1時半～3時半

■会場 長岡京市 中央生涯学習センター6階（JR長岡京駅前 バンビオ1号館内）

■お話 京都府乙訓土木事務所河川砂防室 室長 渡邊 彰さん
「河川整備の変遷と河川工事について」

■参加方法 申し込み不要 直接会場へお越し下さい。定員30名

■問い合わせ先

淀川管内河川レンジャー事務局 上流域流域センター（淀川河川事務所 伏見出張所構内）

TEL：075-611-2246（9時～17時） FAX：075-611-2271

<主催> 淀川管内河川レンジャー 松方 隆

<支援> 国土交通省近畿地方整備局淀川河川事務所

<後援> 長岡京市 大山崎町

<協力> 乙訓の自然を守る会

